

RX-2700KB

## 取扱説明書

このたびは、シングウベルカッターをお買い上げいただき誠にありがとうございます。  
この取扱説明書はシングウベルカッターの性能をいつでも最大限に発揮し、安全に、正しく能率的な作業を進めていただくため、必要な取り扱い操作の手順や点検、手入れの方法などをまとめてあります。

※仕様、形状は予告なく変更することがあります。



刈払機をご使用になる前に、必ず取扱説明書を良くお読みください。取扱説明書は大切に保管してください。

# もくじ

1	はじめに.....	1
2	警告表示のマークについて.....	2
3	使用上のご注意.....	3
3-1	基本的注意事項.....	3
3-2	振動障害の防止.....	3
3-3	作業前の注意.....	3
3-4	作業中の注意.....	5
3-5	作業後の注意.....	6
4	各部の名称.....	7
5	組み立てかた.....	8
5-1	フレキシブルシャフトとメインパイプの結合.....	8
5-2	フレキシブルシャフトとエンジンの結合.....	8
5-3	配線の取付.....	8
5-4	スロットルワイヤーの取り付け.....	8
5-5	スロットルワイヤーの遊びの調整.....	9
5-6	コルゲートチューブの固定.....	9
5-7	操作ハンドルの取付.....	9
5-8	飛散防護カバーの取り付け.....	9
5-9	刈刃の取り付け.....	10
5-10	シングウ製ナイロンヘッドの取り付け.....	11
6	燃料の混合と給油.....	13
6-1	燃料および混合比率.....	13
6-2	給油.....	13
7	始動から停止まで.....	14
7-1	背負バンドと吊りバンドの装着方法.....	14
7-2	始動.....	15
7-3	運転.....	16
7-4	刈払い作業.....	17
7-5	停止.....	17
8	手入れのしかた.....	18
8-1	毎日の点検.....	18
8-2	エアークリーナーの清掃.....	18
8-3	燃料フィルターの清掃.....	19
8-4	スパークプラグの清掃と調整.....	19
8-5	ギアケース.....	20
8-6	シリンダー冷却フィン、冷却風取入口.....	20
8-7	キャブレター.....	21
8-8	フレキシブルシャフト.....	21
8-9	刈刃の目立て.....	22
8-10	保管.....	23
9	故障かな?と思ったら.....	24
10	定期整備表.....	25
11	主要諸元.....	25

# 1 はじめに

このたびは、シングウベルカッターをお買い上げいただき誠にありがとうございます。  
この取扱説明書はシングウベルカッターの性能をいつでも最大限に発揮し、安全に、正しく能率的な作業を進めていただくため、必要な取り扱い操作の手順や点検、手入れの方法などをまとめてあります。

(株)新宮商行の方針は、常により優れた刈払機を市場に提供するために、絶えず設計、製造、技術の改良を続けることです。従って仕様、装備、色、デザインと価格を予告無しに変更する事があります。又、(株)新宮商行は、すでに出荷済みの本機に対して、あらかじめ通知や改良品の供給をすること無しに、そのような変更を行う権利を留保します。

- ★ 機械寿命を高めるため、シングウ専用品、指定品をお使いください。
- ★ 部品交換をするときには、シングウ純正品を使い、正しく修理してください。
- ★ 故障したとき（又は定期整備時）は刈払機販売店へご用命ください。
- ★ 不明な点は、御気軽にいつでも刈払機販売店へおたずねください。

## すべての安全規則を守ること！

☆ この取扱説明書に記載されている危険、警告、及び注意事項をよく読み、確実に理解してください。

文中の**△危険**、**▲警告**、**△注意**は安全上及び取扱上特に重要な部分ですから、必ず守ってください。

**△危険**：取扱上、極めて危険な事項についての説明です。

ここに説明された事項については、間違った取り扱いをしますと**重傷や死亡事故の原因**になりますから必ず守ってください。

**▲警告**：特に重要な取扱上の警告事項です。

ここに説明された事項については、間違った取り扱いをしますと**重大な事故や負傷の原因**になりますから必ず守ってください。

**△注意**：正しい操作のための注意事項です。

ここに説明された事項については、間違った取り扱いをしますと**事故や機械の故障の原因**になりますから必ず守ってください。

## 2 警告表示のマークについて

説明を分かりやすくするため、刈払機、取扱説明書には下記のようなマークを使用しています。

	刈払機をご使用になる前に、必ず取扱説明書を良くお読みください。
	作業時には保護メガネ、防音保護具(耳栓など)、保安帽を必ず着用してください。
	刈刃を取り扱う際には、必ず保護手袋を着用してください。
	飛散防護カバーを取り外して使用してはいけません。取り外すと飛散物が当たって、けがをすることがあります。
	始動の際に思いがけず刈刃が回転し、作業者や周囲の人に危害を与えることがあります。始動時には十分に注意してください。
	刈払機の作業者は、作業者から15m以内に人やペットを入れてはいけません。人やペットが入ってきた場合には、すぐにエンジンを止め、刈刃の回転を止めてください。
	エンジンの排気ガスには人体に有害な一酸化炭素が含まれています。直接吸い込んだり、換気の悪いところでの使用はやめてください。
	刈払機は引火しやすいガソリンを含む混合燃料を使用していますので、引火の恐れのある場所では給油、燃料の保管、刈払作業などを行わないでください。
	エンジンの点火部には高圧電流が流れますので、直接接触すると感電事故の原因となります。
	エンジンやマフラー、及びその周辺は高温になりますので直接接触するとやけどを負うことがあります。

# 3 使用上のご注意

## ▲警告

- ◇ 正しい操作のために注意、警告事項を守ってください。注意、警告事項を守らないと重大な事故に結び付くことがあります。

## 3-1 基本的注意事項

### ▲警告：取扱説明書を熟読してください

- ◇ 刈払機をご使用いただく前に、必ずこの取扱説明書を読み、操作、保守、点検を十分理解した上で使用すること。



### ▲警告：用途以外の使用禁止

- ◇ 本機は雑草、灌木を刈るために設計、製造されています。それ以外の用途（枝打ちや小径木の伐採など）には絶対に使用しないでください。
- ◇ 刈払機は刈刃を高速で回転させて対象物を刈る機械です。取扱方法を誤ると深刻なけがや事故の原因となります。

### ▲警告：使用者の制限、又は禁止

- ◇ 刈払機の使用者及び管理者は、刈払機の取扱内容を理解していない人や、**子供**には、刈払機を使用させないこと。
- ◇ 疲れているとき、体調が悪いとき、病気るとき、医薬品を服用したとき、飲酒したときには刈払機を使用しないこと。

### △注意：貸与、譲渡時の注意事項

- ◇ 刈払機を他人に貸したり、譲渡する場合は、取扱方法を充分説明し、この取扱説明書を必ず添付すること。

## 3-2 振動障害の防止

### △注意：一日の作業時間について

- ◇ 1日の作業時間は、機体または取扱説明書に表示の「周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値」により厚生労働省通達で次のように決められております。
- ◇ 「3軸合成値」が  $10\text{m/s}^2$  より小さい場合は1回の連続作業時間は30分以内とし、一連続作業の後5分以上の休止時間を設け、1日の作業時間は合計で2時間以内としてください。
- ◇ 「3軸合成値」が  $10\text{m/s}^2$  より大きい場合は1回の連続作業時間は30分以内とし、一連続作業の後5分以上の休止時間を設け、1日の作業時間は次の式により算出した時間以内としてください。

$$T = 200 \div (a \times a)$$

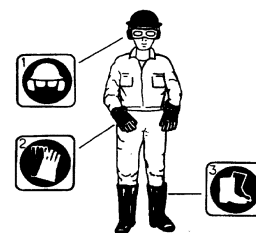
T：1日の最大作業時間(時間)

A：周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値( $10\text{m/s}^2$ )

## 3-3 作業前の注意

### ▲警告：正しい服装と保護具の着用

- ◇ 作業時には、①保護メガネ、防音保護具(耳栓など)、保安帽、②防振手袋、③安全長靴を忘れずに着用してください。
- ◇ ダブダブの服、装飾品などの刈払機や枝などにひっかかる可能性のあるもの、また半ズボンなど肌を露出する服は、着用しないでください。
- ◇ 刈刃を扱うときには、保護手袋を必ず着用してください。



### ▲警告：使用前の点検について

- ◇ 刈払機を使用する前には、必ず取扱説明書の記述に従って、点検、整備を行うこと。
- ◇ 使用に適さない部品や、異常が発見された場合には、速やかに販売店などに点検、修理を依頼すること。なお、部品は純正部品を使用すること。

### ▲危険：燃料の補給、補給時の火気厳禁

- ◇ **火気厳禁**：燃料混合時や給油時には、必ずエンジンを止めてください。  
また、たばこの火や、たき火のような、火気のあるところでは燃料の混合や給油を行わないこと。
- ◇ **火気厳禁**：エンジンの始動の際には必ず、給油箇所から3m以上離れること。
- ◇ 給油時に燃料がこぼれた場合は、燃料を刈払機から完全にふき取ること。
- ◇ 燃料の補給後はタンクキャップを確実に締めること。



### ▲警告：刈刃の取り扱いについて

- ◇ 刈刃を取り扱う際には、必ず保護手袋を着用すること。
- ◇ 刈刃はいつも正しく目立てしたものを使用し、「割れ」や「欠け」があるものは、絶対に使用しないこと。
- ◇ 刈刃は、シングウ純正品のみを使用し、刈払機に付属している刈刃と同じ直径のものをご使用ください。
- ◇ 刈刃の取り付けは、すべての部品を取り付けてから行うこと。
- ◇ 刈刃は付属の専用工具で確実に取り付けること。



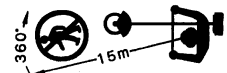
### ▲警告：危険緩和装置の取り外し禁止

- ◇ 肩掛けバンド、飛散防護カバーなどを取り外して使用してはいけません。



### ▲警告：作業範囲への他者の立入禁止

- ◇ 作業員から半径15m以内を作業範囲とし、この範囲に人や家畜が入ってきた場合は、すぐにエンジンを切り、刈刃の回転を止めてください。



### ▲警告：作業環境について

- ◇ 刈払作業の範囲にある石、ガラス、釘、針金などの刈刃がはね飛ばしそうなものや、ツタ、紐などの刈刃に絡み付きそうなものは、前もって取り除いておくこと。
- ◇ 夜間、及び照明のない所など視界の悪い場所では刈払機を使用しないでください。
- ◇ 雨天時、又は雷天時には刈払機を使用しないでください。

### ▲警告：使用時間の制限

- ◇ 一日の使用時間は2時間以内にしてください。また、一回の連続使用時間はおおむね30分以内とし、一連続作業の後5分以上の休止時間を設けること。
- ◇ 使用時間を越える連続使用は、手や腕などの振動障害の原因となります。

### ▲警告：排気ガスについて

- ◇ 屋内や換気の悪い場所でエンジンを始動、運転してはいけません。エンジンの排気ガスには人体に有害な一酸化炭素などの物質が含まれています



### ▲警告：エンジンの始動時の制限、又は禁止

- ◇ 始動時の刈刃の回転には充分注意すること。始動の際に思いがけず刈刃が回転し、作業員や周りの人に危害を与えることがあります。はじめにエンジンの停止方法をよく理解してください。
- ◇ エンジンの始動方法を理解しないうちに、エンジンを始動してはいけません。
- ◇ エンジン始動時は、必ず刈払機を地面の上に置き、刈刃が地面や障害物などに触れていないことを確認してから始動すること。
- ◇ エンジンが始動したらスイッチを OFF にし、確実にエンジンが停止することを確認すること。
- ◇ メインパイプ(操作桿)を取り付けていない状態で、絶対にエンジンを始動しないこと。



## 3-4 作業中の注意

### △注意：作業姿勢の注意

- ◇ しっかりとした平らな場所に立つようにし、常にバランスを保つように作業すること。

### ▲警告：作業中の刈刃についての禁止事項

- ◇ 作業中は、刈刃を岩や金属などの切ることができない物や地面に故意に接触させないこと。
- ◇ 刈刃を岩や金属などの切ることができないものや地面に不意に接触させてしまったときは、エンジンを止め、刈刃の回転が止まってから刈刃を点検すること。  
刈刃に「割れ」や「欠け」がある場合は刈刃を交換し、取付部に「緩み」や「がた」があるときは刈刃を正しく付け直してください。
- ◇ 回転している刈刃に触れたり、物を当てたりしないこと。
- ◇ 刈払機を下に置くときはエンジンを停止し、完全に刈刃の回転が止まっていることを確認すること。
- ◇ 作業中は刈刃を腰よりも高く上げないこと。

### ▲警告：エンジンのアイドル回転速度の調整

- ◇ アイドリング回転時に刈刃が回転すると危険です。アイドル回転時に刈刃が回転するようであれば、アイドルアジャスターでアイドル回転数を下げてください。

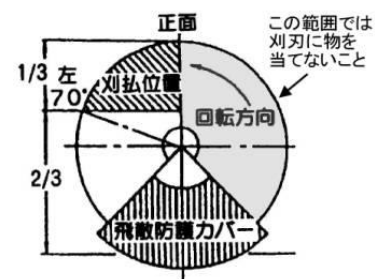
### ▲警告：エンジン、及び刈刃の回転中の点検・修理の禁止

- ◇ 刈払機の点検・修理・作業中断時は必ずエンジンを停止し、刈刃の回転が完全に止まってから行うこと。
- ◇ 作業中に刈刃が障害物に当たったときはすぐにエンジンを停止し、刈刃の回転が止まっていることを確認してから、点検を行うこと。
- ◇ 刈払機に異常を感じたらただちにエンジンを停止し、刈刃が止まっていることを確認してから点検を行うこと。
- ◇ 刈刃の周辺部に雑草、つるなどが絡まったときは、ただちにスロットルレバーを戻し、エンジンを停止し、刈刃が止まっていることを確認してから、点検・除去すること。

エンジンをかけたまま刈刃の周辺部の雑草、つるなどを除去すると不意に刈刃が回りはじめ、非常に危険です。

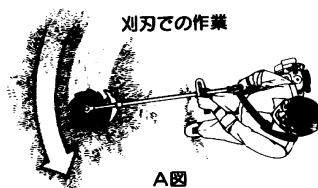
### ▲警告：キックバックに注意すること

- ◇ キックバックとは、回転する刈刃が硬いものに接触したときに、反動で刈払機と作業者の全体が激しく強く押される現象です。
- ◇ キックバックが起きると、作業者が刈払機を制御できなくなります。特に刈刃の右側が硬いものに接触すると、刈払機から作業者の方に激しく押されたり、跳ね上がったりする事があります。**絶対に刈刃の右側では作業をしないでください。**



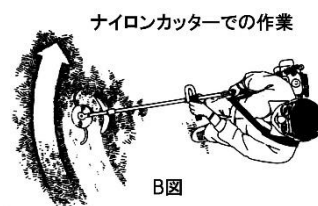
### ▲警告：刈払方法を守ること

- ◇ 刈刃での作業はキックバックをさけるため、右から左へ掃くように刈ること(A図参照)。



### ▲警告：刈払方法を守ること

- ◇ ナイロンカッターでの作業は、ナイロンコードに弾かれた物が作業者の方向に飛散するのを防ぐため、必ず左から右に刈ること(B図参照)。



**▲警告：運転中の高電圧部、高温部の接触禁止**

- ◇ 刈払機の運転中は、点火プラグキャップ部や、高圧線に触れてはいけません。感電事故の原因となります。
- ◇ 運転中はエンジンやマフラー、その周辺に触れてはいけません。また停止後もしばらくは高温です。触れてはいけません。



**▲注意：共同作業での注意**

- ◇ 二人以上で作業する場合は、作業の終了や危険発生などを知らせる合図をあらかじめ作業者間で決めて作業すること。また、合図には遠くからでも合図ができるように、呼子(ホイッスル)などを使用すること。
- ◇ 作業者同士の間隔は、15m以上とること。

## 3-5 作業後の注意

---

**▲警告：損傷した刈刃の使用禁止**

- ◇ 刈刃は使用する前に「割れ」「欠け」「反り」「ひび割れ」などがいないか確認すること。不適切な刈刃は廃棄すること。

**▲警告：高温時の点検、清掃の禁止**

- ◇ エンジンやマフラー、その周辺は、エンジン停止後はしばらく高温です。点検・清掃は十分に冷えてから行うこと。

**▲警告：刈刃の回転軸周りの清掃**

- ◇ 作業後は刈刃を取り外し、ギアやその周りに絡み付いている草やツタなどを取り除くこと。

**▲警告：保管時の注意**

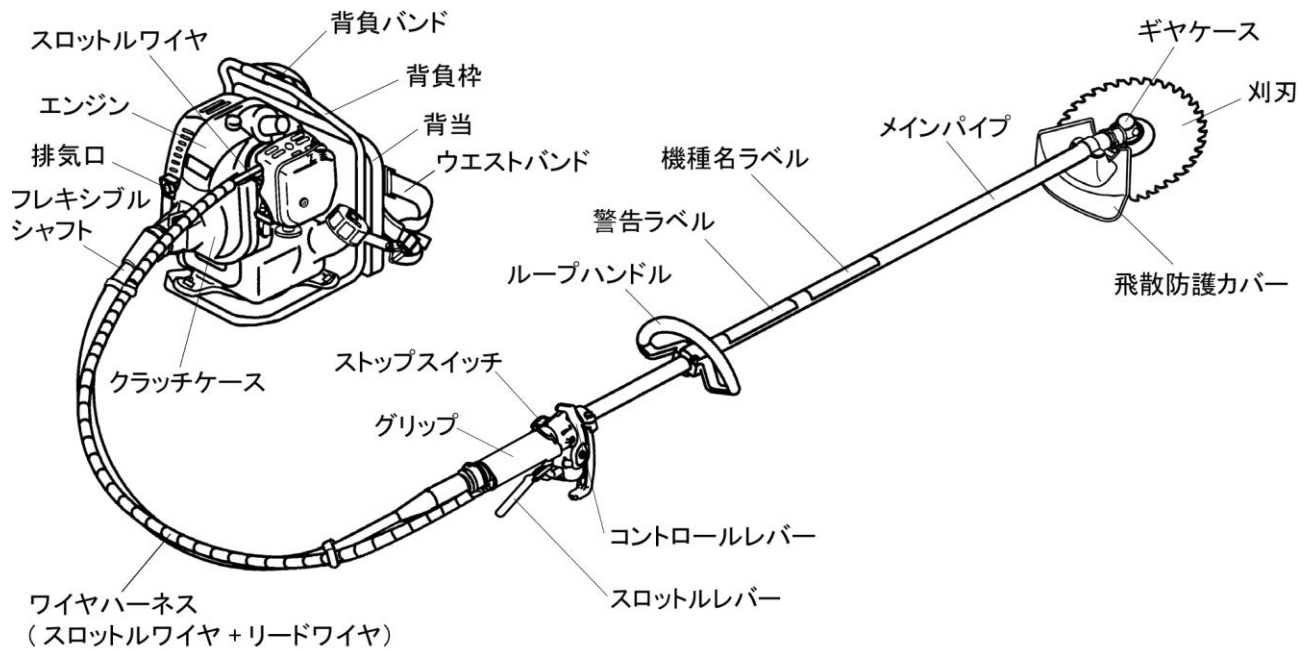
- ◇ 長期間使用しないときは、燃料タンクやキャブレターの中の燃料を空にして、屋内の湿気やほこりの少ないところに保管すること。
- ◇ 刈刃をつけたまま保管するときには、必ずノコバカバーを刈刃に取り付けること。
- ◇ 子供の手の届かないところに保管すること。

**▲警告：運搬時の注意**

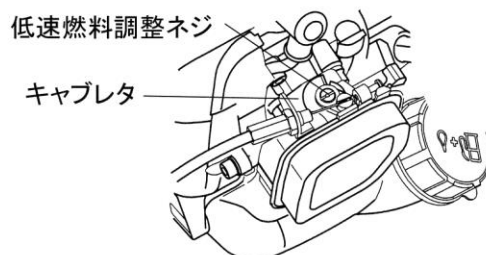
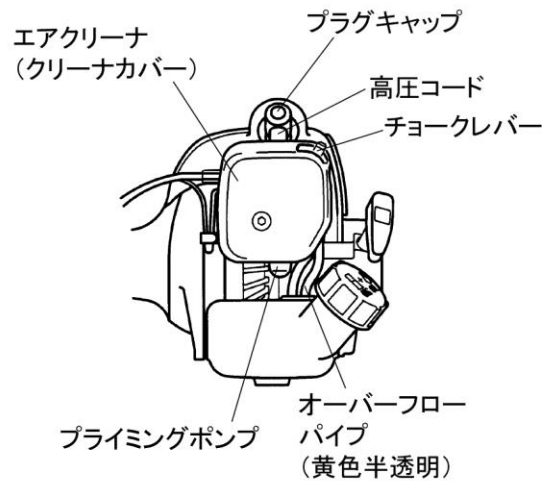
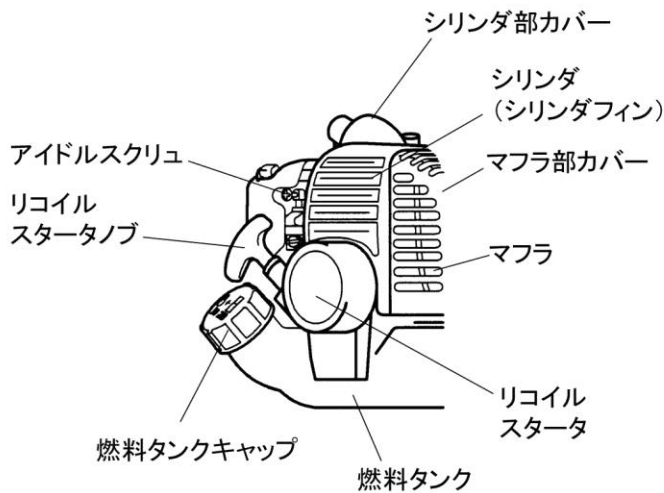
- ◇ 使用中に次の作業地へ移動するときは、たとえ短い距離でも必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから、刈刃にノコバカバーを取り付けること。
- ◇ 車などで輸送するときは、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから、燃料タンクを空にし、刈刃にノコバカバーを取り付けて、動かないようにしっかりと固定すること。ただし、メインパイプ(操作桿)が曲がらないように、十分注意してください。



# 4 各部の名称



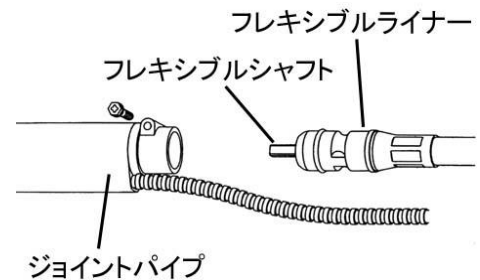
## 【エンジン】



# 5 組み立てかた

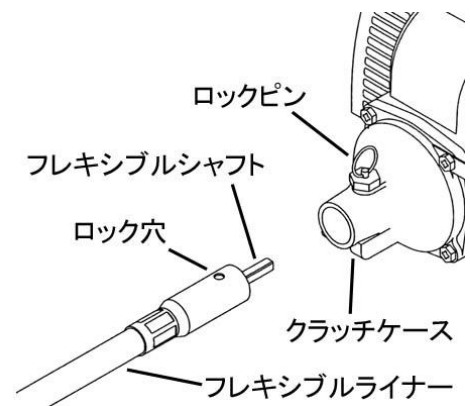
## 5-1 フレキシブルシャフトとメインパイプの結合

1. ジョイントパイプに仮止めしてあるネジを取り外します。
2. フレキシブルライナーをジョイントパイプに差し込みます。  
フレキシブルシャフトがジョイントパイプ内部の四角穴に入るように向きを合わせて、フレキシブルライナーをジョイントパイプに差し込みます。
3. さきほど外したネジを元通りに取付けます。



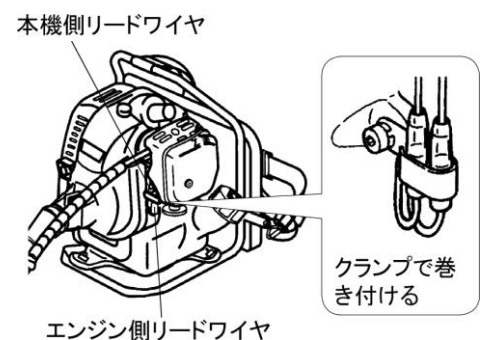
## 5-2 フレキシブルシャフトとエンジンの結合

1. ロックピンを上引っ張ります。
2. フレキシブルライナーをクラッチケースに差し込みます。  
フレキシブルシャフトが、クラッチケース内部のクラッチドラムの四角穴に入るように向きを合わせて、フレキシブルライナーをクラッチケースにしっかりと奥まで差し込みます。
3. ロックピンをロック穴に入れます。  
ロックピンを放し、フレキシブルライナーを左右に回してロックピンをロック穴に入れます。フレキシブルライナーを引っ張ってクラッチケースから抜けないことを確認します。



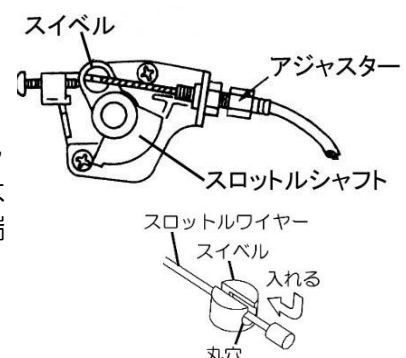
## 5-3 配線の取付

1. リードワイヤを接続します。  
フレキシブルライナー側のリードワイヤ2本とエンジン側のリードワイヤ2本を確実に接続し、クランプで巻き付けます。



## 5-4 スロットルワイヤーの取り付け

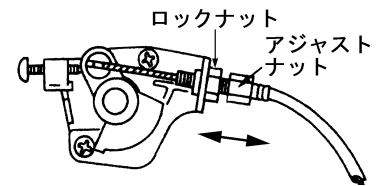
1. スロットルワイヤーの端子をエンジンのキャブレターのアジャスターに通します。
2. ワイヤーの端子をスィベルの溝にはめ込みます。  
キャブレターのスロットルシャフトを回してスィベルをアジャスター側に近寄せながらワイヤーの端子をスィベルの溝にはめ込みます。このとき、スィベルの丸い穴が開いている方が端子の先端にくるようにしてください。
3. スロットルワイヤーがアジャスターから抜け出していないか確認してください。



## 5-5 スロットルワイヤーの遊びの調整

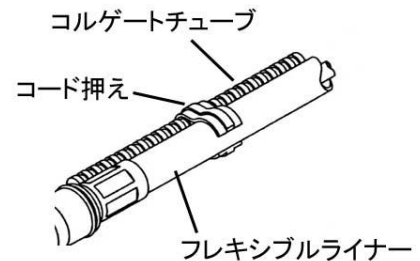
スロットルワイヤーの遊びが0.5～1.0mm になるように調節します。

1. ロックナットを緩めます。
2. アジャストナットを回して、スロットルワイヤーの遊びを調節します。
3. アジャストナットを動かないように固定しながら、ロックナットを締め付けます。



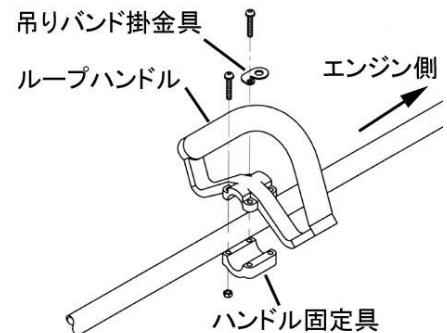
## 5-6 コルゲートチューブの固定

同梱のコード押さえ（3箇所）にてフレキシブルライナーにコルゲートチューブを固定します。



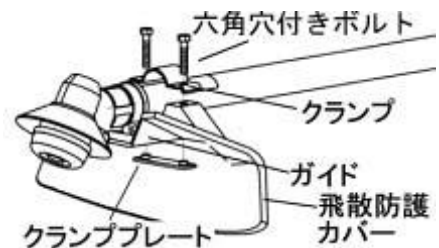
## 5-7 操作ハンドルの取付

1. ループハンドルを取り付けます。  
ループハンドルと固定具をボルト、ナットで固定してください。吊りバンド掛け金具は図のように取り付けてください。

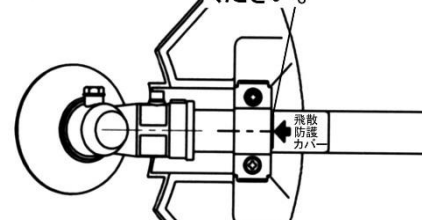


## 5-8 飛散防護カバーの取り付け

1. クランププレートを取り付けます。  
クランププレートの凸部（2ヶ所）を飛散防護カバーの裏側の2つの穴にはめ込みます。（クランププレートを凸部を下に向けて取り付けると六角穴付きボルトが届かなくなります。）
2. 飛散防護カバーをメインパイプに取り付けます。  
飛散防護カバーをメインパイプの下側に取り付け、ガイドをギアケースにあてがいます。
3. 六角穴付きボルトを締め付けます。  
クランプをメインパイプの上側に取り付け、クランプと飛散防護カバーの穴位置を合わせて、六角穴付きボルト（M5×30）2本でしっかりと締め付けます。



この線にクランプの後方を合わせてください。



### ▲警告

- ◇ 飛散防護カバーは必ず正しく取り付けてください。飛散防護カバーを取り付けずに刈払機を使用すると事故の原因となります。

## 5-9 刈刃の取り付け

### ▲警告

- ◇ エンジンをかけたまま、刈刃の付け外しを行なわないでください。
- ◇ 刈刃を扱うときは、必ず保護手袋を着用してください。不用意に刈刃を扱ると、手などのケガの原因となります。
- ◇ 刈刃を取り付ける前に、ギアに付いているゴミなどを清掃してください。
- ◇ 刈刃を取り付けるときは、刈刃の取り付け穴を刃受け金具の凸部に確実にはめてください。刈刃が正しくついていないと異常振動し、事故の原因となります。
- ◇ 交換用の刈刃及び取り付け金具はシングウ純正品をご使用ください。

刈刃は機械を裏返し、図の順に取り付けます。  
機械を裏返すときは、燃料タンクから燃料がもれることのないように、タンクキャップが緩んでいないか確認してください。

#### 1. 刃受け金具の回り止めをします。

刃受け金具を回して、刃受け金具の穴とギアケースの穴を合わせ、付属の六角棒レンチを差し込んで、刃受け金具の回り止めをします。

#### 2. 刃押え金具などを外します。

ギアケースに仮組みしてある鋸刃締付ボルト(左ネジ)を付属のスクレンチで右に回して緩め、カップワッシャー、刃押え金具を外します。

#### 3. 刃受け金具のゴミを取り除きます。

刃受け金具にゴミが付着していれば綺麗に掃除し、磁石に砂鉄なども付いていないか確認します。

#### 4. 刈刃の穴を刃受け金具の凸部にはめます。

刈刃を文字のある面をギアケース側に向けて刃受け金具にのせ、刈刃の穴を刃受け金具の凸部に正しくはめます。

#### 5. 刃押え金具をギアシャフトに取り付けます。

このとき、刃押え金具は軸にしっかりと差し込まれていることを確認してください。

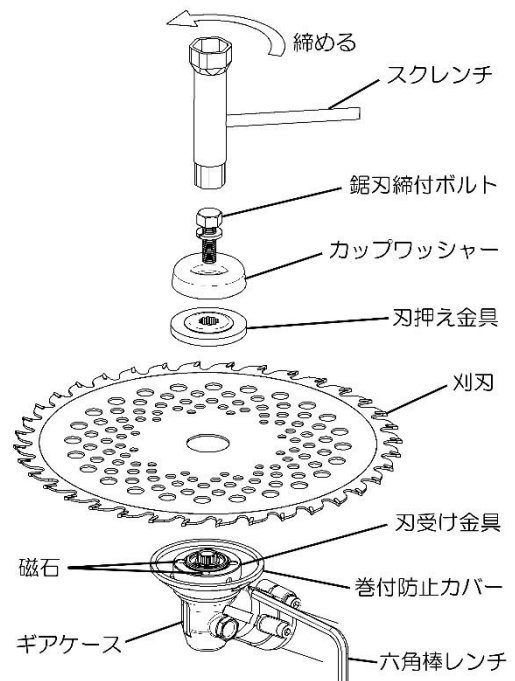
#### 6. 鋸刃締付ナットを取り付けます。

カップワッシャーと鋸刃締付ボルトを取り付け、ギアシャフトにねじ込み、付属のスクレンチで確実に締めつけてください。鋸刃締付ボルトは左ネジですので、左回り(反時計回り)に回すと締まります。

締めトルク=17.6~19.6N-m(180~200kgf-cm)

刈刃の取付けが終わったら回り止め用の六角棒レンチを忘れずに抜き取ってください。

#### 7. 保護手袋をしたまま、刈刃を軽く手で回して、外周に振れが無い点検してください。



## 5-10 シングウ製ナイロンヘッドの取り付け

### △注意

- ◇ この項は弊社「シングウオートタップ」の取付についての説明です。他のナイロンカッターなどの取付については、其方の取扱説明書を御確認ください。
- ◇ 必要以上にナイロンコードを長くして使用すると、エンジンに過負荷がかかり、エンジン焼き付きの原因となります。必ず正規のナイロンコードの長さで使用してください。

### 5-10-1 弊社発売「SURETAPⅡ」の場合

ナイロンヘッドは機械を裏返し、図の順に取り付けます。シャフトボルトは P/N726108 をお使いください。機械を裏返すときは、燃料タンクから燃料がもれることのないように、タンクキャップが緩んでいないか確認してください。

#### 1. 刃受け金具の回り止めをします。

刃受け金具を回して、刃受け金具の側面の穴とギアケースの穴と巻付防止カバーの穴を合わせ、付属の六角棒レンチを差し込んで、刃受け金具の回り止めをします。

#### 2. カップワッシャーなどを外します。

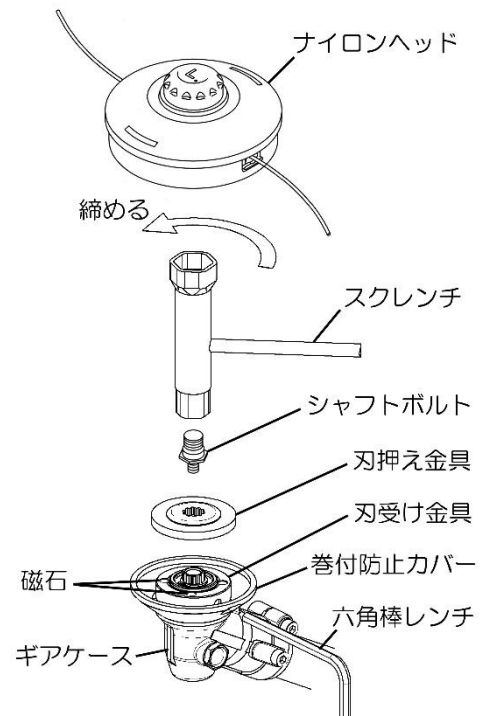
ギアケースに仮組みしてある鋸刃締付ボルト（左ネジ）を付属のスクレンチで右に回して緩め、スプリングワッシャー、カップワッシャーを外します。（刃受け金具はつけたままにします。）


#### 3. シャフトボルトを取り付けます。

ナイロンヘッドに付属のシャフトボルトを取り付け、付属のスクレンチでしっかりと締めつけます。

#### 4. ナイロンヘッドを取り付けます。

ナイロンヘッドをギアシャフトに左回り（反時計回り）にねじ込み、しっかりと締めつけます。ナイロンヘッドの取り付けが終わったら、回り止め用の六角棒レンチを忘れずに抜き取ってください。



 大切に保管してください。

### 付記

- ◇ 鋸刃締付ボルトとスプリングワッシャーとカップワッシャーは刈刃を取り付けるときに使用しますので紛失しないように大切に保管してください。

## 5-10-2 弊社発売「SURETAP IV」の場合

ナイロンヘッドは機械を裏返し、図の順に取り付けます。機械を裏返すときは、燃料タンクから燃料がもれることのないように、タンクキャップが緩んでいないか確認してください。

### 1. 刃受け金具の回り止めをします。

刃受け金具を回して、刃受け金具の穴と巻付防止カバーの穴を合わせ、付属の六角棒レンチを差し込んで、刃受け金具の回り止めをします。

### 2. 刃押え金具などを外します。

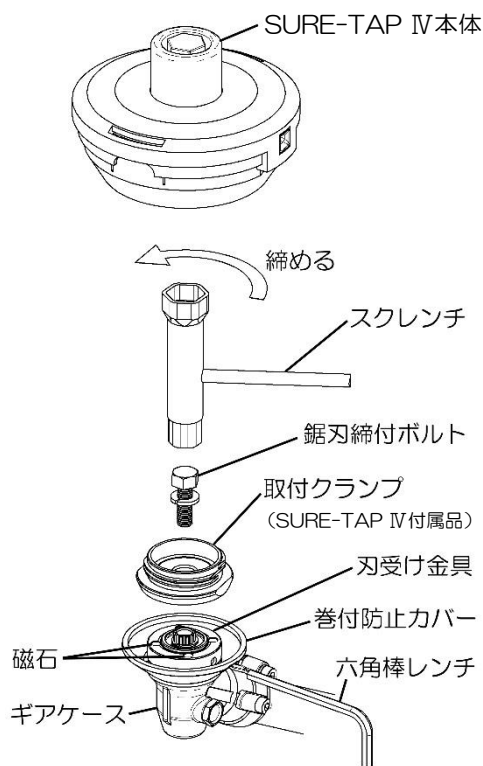
ギアケースに仮組みしてある鋸刃締付ボルト(左ネジ)を付属のスクリンチで右に回して緩め、刃押え金具、カップワッシャーを外します。

### 3. 刃受け金具のゴミを取り除きます。

刃受け金具にゴミが付着していれば綺麗に掃除し、磁石に砂鉄なども付いていないか確認します。

### 4. 取り付けクランプを刃受け金具にのせます。

SURETAP IV 付属の取り付けクランプを刃受け金具にのせ、取り付けクランプの凹部を刃受け金具の凸部に正しくはめます。



### 5. 取り付けクランプを締め付けます。

取り付けクランプが刃受け金具に正しくはまったら、鋸刃締付ボルトをギアシャフトにねじ込み、付属のスクリンチで確実に締め付けてください。鋸刃締め付けボルトは左ネジですので、左回り(反時計回り)に回すと締まります。

締め付けトルク=17.6~19.6N-m(180~200kgf-cm)

### 6. SURETAP IVを取り付けます。

取り付けクランプの取り付けが終わったら、SURETAP IVの本体を取り付けクランプに捻り込みます。こちら左ネジですので、左回り(反時計回り)に回すと締まります。SURETAP IVの取り付けが終わったら、回り止め用の六角棒レンチを忘れずに抜き取ってください。

### 付記

- ☆ 刃押え金具とカップワッシャーは刈刃を取り付けるときに使用しますので紛失しないように大切に保管してください。

## 6 燃料の混合と給油

### ▲危険

- ◇ 火気厳禁：燃料は非常に引火しやすいため取り扱いを誤ると火災ややけどの原因となります。また、気化した燃料は爆発して死傷事故を起こすおそれがあります。
- ◇ 燃料の混合および給油は、必ず、火の気の無い場所で行うこと。又、燃料の混合および給油をする時にはタバコを吸ってはいけません。



### ▲警告

- ◇ 給油の際、燃料がこぼれた場合には、こぼれた燃料を本機から完全にふき取ること。こぼれた燃料が引火して火災ややけどの危険があります。
- ◇ 給油の際、ハンドルにオイルや燃料が付いたら、ふき取ること。ハンドルにオイルや燃料が付いていると手が滑り、重大な事故を引き起こす危険があります。
- ◇ タンクキャップは確実に締めつけること。
- ◇ 作業の途中で給油するときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行なうこと。

### ▲注意

- ◇ 混合燃料は正しく混合された新しいものを使用すること。下記のものはいけません。
  - 生ガソリン(混合されていないガソリンのみのもの)
  - 混合比率の間違ったもの
  - 混合されてから30日以上経過したものや、変質したもの
- ◇ 砂やゴミ、水などの入ったものは絶対に使用しないでください。エンジンの寿命を縮めるばかりか、故障の原因となります。
- ◇ エンジンの燃料タンク内でじかに混合しないこと。

### 6-1 燃料および混合比率

- 本機の燃料には無鉛ガソリンに2サイクルエンジン用オイルを混合した物を使用します。混合は燃料タンクとは別に容器を用意して行います。
- 刈払機のエンジンは小型、軽量、高性能エンジンですから、混合するオイルの選択と混合比率は非常に大切です。
- 弊社発売の専用エンジンオイル「SS-50 (JASO 規格 FC 級)」を御使用ください。

ガソリンの量	1 l	5 l	10 l
エンジンオイルの量	20 c c	100 c c	200 c c
混合比率<50:1>			

燃料の混合、及び携帯には、弊社発売の携行缶をご使用ください。正しい混合比率の混合燃料が、必要な量だけ簡単に作れます。

### 6-2 給油

1. 各部を点検し、ゆるんでいるナットやボルトがあれば増し締めます。
2. 本機を平らな地面の上に置きます。
3. 正しく混合した燃料を燃料タンクに給油します。

# 7 始動から停止まで

## 7-1 背負バンドと吊りバンドの装着方法

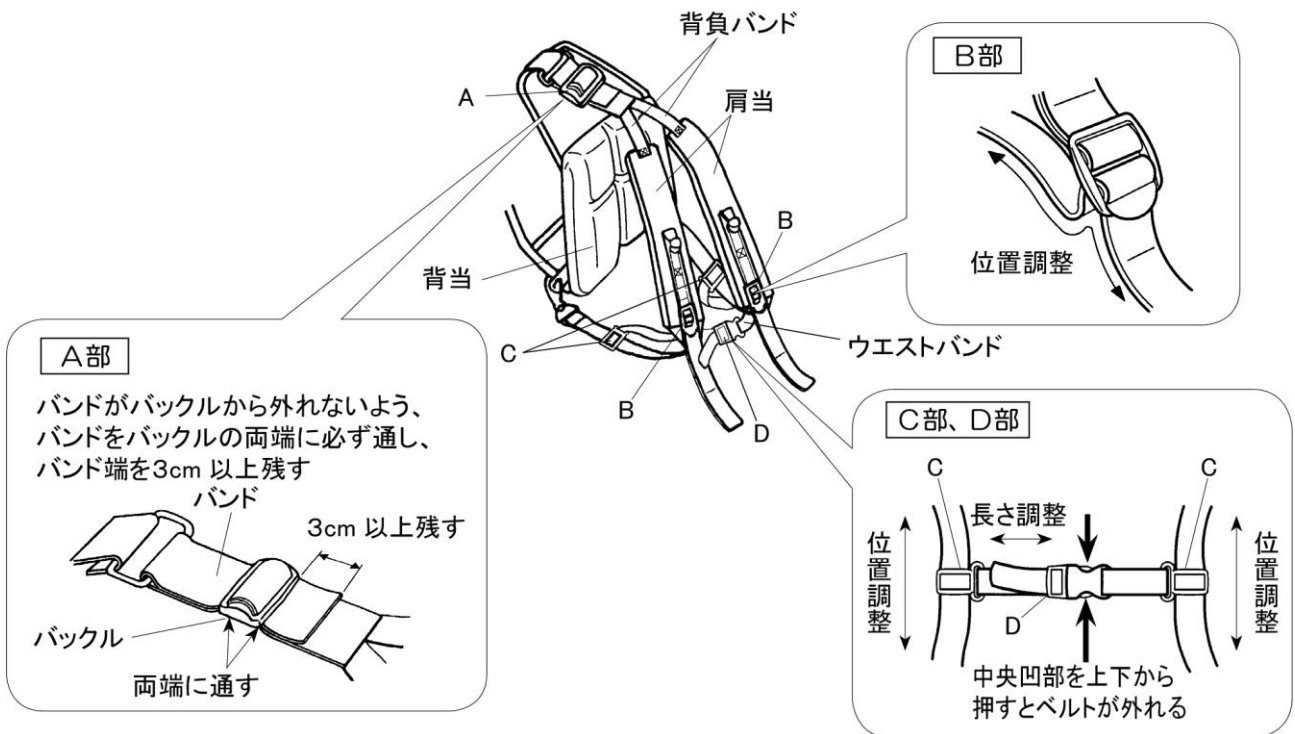
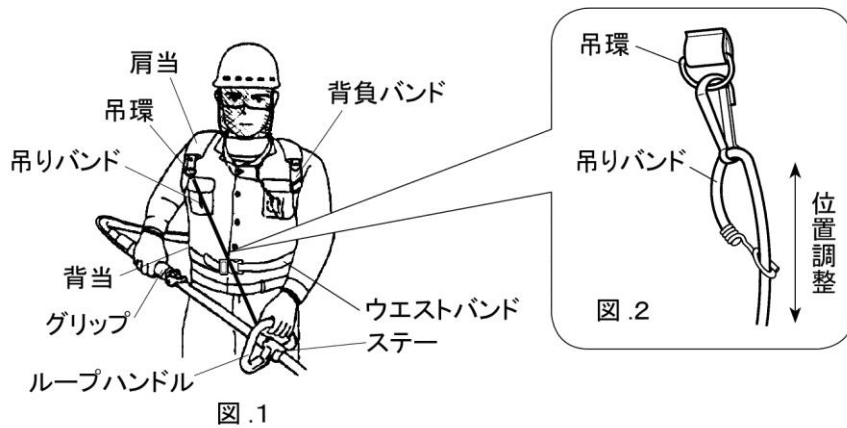
背負バンドは消耗品です。切れ、ほつれ、損傷などがないことを確認してください。

### 1. 背負バンド、ウエストバンドを調節します。

背負バンド、ウエストバンドを図.1のように装着してください。ウエストバンドは中央凹部を上下から押すと、ワンタッチで外れます。背負バンド、ウエストバンドをエンジン部を背負ったとき作業しやすいよう、A部、B部、C部およびD部で調節してください。

### 2. 吊りバンドを装着します。

図.2のように肩当の吊環とループハンドルに取り付けたバンド掛金具に取り付けてください。背負った状態でグリップに軽く手を添えたとき、吊りバンドの引き力によって刈刃が地面と平行になるよう、吊りバンドの長さを調節してください。





## 7-2 始動

### ▲警告

- ◇ はじめにエンジンの停止方法をよく理解してください。
- ◇ エンジン始動時は、必ず刈払機を地面の上に置き、刈刃が地面や障害物などに触れていないことを確認してから始動すること。
- ◇ 始動の際には、必ず給油した場所から、3m以上離れた場所で行うこと。
- ◇ ガソリンやオイルのそばで始動を行うと火災や、やけどの危険があります。
- ◇ 始動の際に思いがけず刈刃が回転し、作業員や周囲の人に危害を与えることがあります。始動時には十分に注意してください。



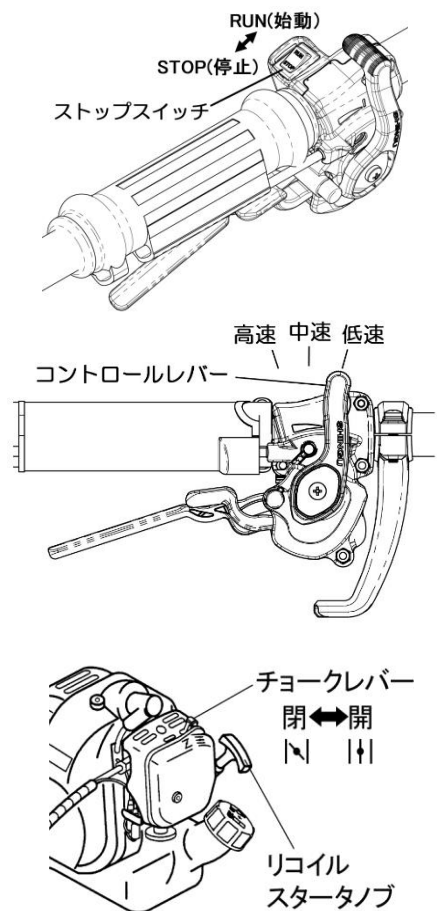
### ▲注意：スターターについて

- ◇ ロープが引き出せないところまで(力を入れて)引ききると故障の原因になることがあります。
- ◇ リコイルを分解しないこと。リコイル内部の分解は危険です。

本製品は蓄力スターターにより、リコイルスタータノブを一気に引かなくてもエンジン始動が可能です。軽い力で2～3回に分けてスタータノブを引き、エンジンを始動できます。

### 7-2-1 エンジンが冷えている場合

1. ストップスイッチを RUN(始動)位置にします。
2. コントロールレバーを低速にします。
3. プライミングポンプを数回押します。(10回以上)  
燃料が透明のオーバーフローパイプを通り始めますので、オーバーフローパイプ内を流れる燃料に気泡がなくなるまで、プライミングポンプを繰り返し押します。  
プライミングポンプを必要回数以上に押した場合でも、余分な燃料は燃料タンクの中に戻りますので、燃料を吸込み過ぎる状態になることはありません。
4. チョークレバーを全閉にします。  
チョークレバーはクラッチ側に移動させると全閉に、リコイルスターター側に移動させると全開になります。
5. リコイルスタータノブを数回引きます。  
左手でフレームをしっかりと押さえ、右手でリコイルスタータノブを数回引いてください。
6. エンジンがかかったらチョークを開きます。  
チョークレバーを「開く」の位置までゆっくりと移動させチョークを開きます。  
爆発音がしてエンジンが止まった場合、または、エンジンがかかったあとでチョークレバーを操作する前にエンジンが止まってしまった場合は、チョークを開いてからリコイルスタータノブを数回引き、エンジンをかけます。
7. 1～2分間低速で暖機運転をします。
8. 必ずコントロールレバーが低速位置で本機を背負います。



## 7-2-2 エンジンが暖まっている場合（暖気運転後など）

1. コントロールレバーを低速にします。
2. チョークレバーを「開く」の位置まで移動させチョークを開きます。
3. リコイルスタータノブを数回引きます。  
左手でフレームをしっかりと押さえ、右手でリコイルスタータノブを数回引いてください。
4. 数回引いてもエンジンがかからない場合  
「エンジンが冷えている場合」と同じ要領で始動を行います。
5. 必ずコントロールレバーが低速位置で本機を背負います。

## 7-3 運転

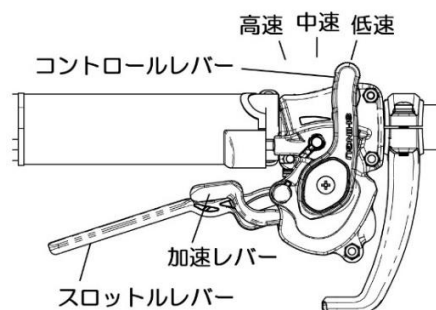
### ▲警告

◇ 刈刃やチップソー、ナイロンヘッドに負荷がかかっていない時には高速回転をさせてはいけません。過剰回転してエンジンの寿命を縮めるばかりか、故障の原因となります。特にエンジンが新しいときには注意すること。

#### 1. 徐々に回転を上げます。

エンジンが始動したら、急に高速にしないで1～2分間ほどそのままの状態です。

その後、スロットルレバーを握りながらコントロールレバーを中速側へ徐々に移動させ、エンジン回転数を上昇させます。スロットルレバーを放すと、エンジンはアイドリングに戻ります。



#### 2. 数回加減速を行います。

スロットルレバーを開閉して、数回加減速を行います。これはキャブレター内の空気を抜くため、空気があると加速不良やエンストなどが発生することがあります。

#### 3. コントロールレバーでエンジン回転数を設定します。

スロットルレバーを握ると、エンジンはコントロールレバーで設定された回転数を維持します。作業に適した位置に設定してください。

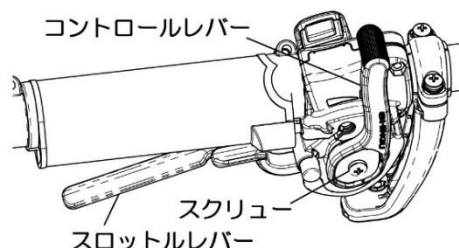
#### 4. 必要に応じて加速レバーを操作します。

運転中に加速レバーを握ると回転をさらに上げることができます。作業中にエンジンの回転数が落ち込んだ時など、一時的に回転数を上げたい場合は、加速レバーを操作して行います。

#### 5. コントロールレバーが連れ回りする場合

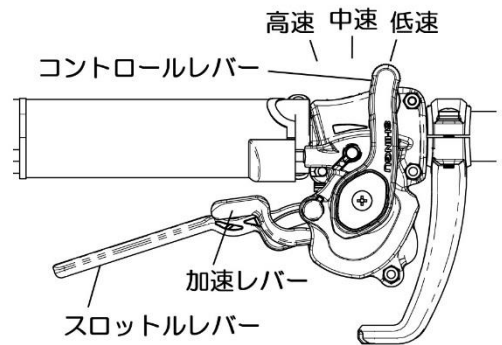
スロットルレバーを握った時に、コントロールレバーが連れ回りする場合は、スクリューを少しだけ締め込んでください。

締め込みすぎるとコントロールレバーが動きにくくなります。



## 7-4 刈払い作業

- スロットルレバーを握った状態で、コントロールレバーを中速側へ操作すると、エンジン回転が上がり、自動的にクラッチがつながり、刈刃やナイロンヘッドが回り始めます。
- コントロールレバーを高速（スロットル全開）にするとエンジンの回転数は約 10,000r.p.m で回ります。作業は約 7,000～8,000r.p.m(コントロールレバーを高速から 1/3 程度戻した位置)で行ってください。
- 作業条件に合わせて、コントロールレバーでエンジンの回転数を調節してください。(ナイロンヘッドを御使用の際には、ナイロンヘッドの取扱説明書もよく御覧ください。)
- スロットルレバーを放すと、エンジンがアイドリングになり、自動的にクラッチが切れます。(刈刃やチップソー、又はナイロンヘッドは慣性でしばらく回り続けます)。
- スロットルレバーを放しても刈刃やナイロンヘッドが止まらずにずっと回り続ける場合には、「8-7 キャブレター」に従ってアイドリングの回転数を調節してください。
- 運転中に加速レバーを握ると回転をさらに上げることができます。作業中にエンジンの回転数が落ち込んだ時など、一時的に回転数を上げたい場合は、加速レバーを操作して行います。



## 7-5 停止

### △注意

- ◇ 緊急の場合は直ちにストップスイッチを STOP(停止)位置にして、エンジンを停止してください。
- ◇ 刈刃はエンジン停止後も慣性でしばらく回りつづけます。完全に止まるまで刈刃に触れないでください。
- ◇ ストップスイッチ不調のため、エンジンをチョークレバーの操作で停止した場合は、次回にエンジンを始動する前に必ずお買い求めの販売店にてストップスイッチの点検と修理を依頼してください。

1. **スロットルレバーを放します。**  
スロットルレバーを放して、エンジンをアイドリング（低速回転）でしばらく回します。
2. **ストップスイッチを STOP(停止)位置にします。**  
スイッチの接触不良等により、ストップスイッチを STOP(停止)位置にしてもエンジンが停止しない場合は、チョークレバーを閉じてください。しばらくすると失速しエンジンが停止します。



# 8 手入れのしかた

## △注意

- ◇ 作業前の点検は必ず実施してください。
- ◇ 本機に異常が発見された場合には、速やかに弊社販売サービス点に点検、修理を依頼してください。

- エンジンの寿命は手入れの良否で決まります。ボルト、ナットの緩みは毎日点検し、以下の手入れを守り、1年に1回は販売店で点検をしてください。

## 8-1 毎日の点検

- ◇ 製造時の振動レベルを維持するためと安全に作業を行うために作業前に必ず各部の点検を行って下さい。

### 1. ボルト、ナットを点検します。

使用前にボルトやナットがゆるんでいないか点検します。特に刈刃の締め付けボルトは良く点検します。

### 2. メインパイプの曲がりなど変形がないか点検します。

### 3. 刈刃を点検します。

刈刃に「割れ」や「欠け」「曲がり」「反り」「ひび割れ」があるものは振動の原因となるばかりか使用中に破壊する可能性もあり危険です。使用せず交換して下さい。また、チップの欠損したチップソーは作業効率の低下だけでなく振動の原因になりますので交換して下さい。

### 4. グリップを点検します。

グリップに磨耗、割れなど破損がないか点検して下さい。

### 5. 燃料漏れを点検します。

燃料タンク、タンクキャップ、燃料ホース、その他から燃料がもれていないか点検します。

### 6. エアークリーナー、スパークプラグを点検します。

### 7. シリンダ冷却フィン周辺のコミを掃除します。

シリンダ冷却フィン、冷却風取入れ口（キャブレター下側、マフラー下側）のコミを掃除します。

## 8-2 エアークリーナーの清掃

エンジンにはエンジン内部にほこりなどが入らないようにエアークリーナーが付いています。このクリーナーが詰まると出力が低下したり、始動不良となりますので、時々洗浄が必要です。また、汚れがひどい場合は交換します。

また、毎日使用する場合には一日に一回、清掃してください。

### 1. エアークリーナーカバーを取り外します。

6角棒レンチ（3mm）を使ってエアークリーナーカバーのノブボルトを緩め、取り外します。

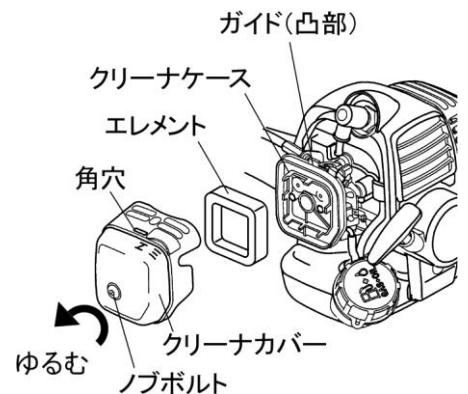
### 2. エアークリーナーを洗います。

取り出したエアークリーナーエレメントを混合燃料で洗浄し、よく絞って乾かしてください。

### 3. 汚れがひどい場合にはエアークリーナーエレメントを交換します。

### 4. エアークリーナーを取り付けます。

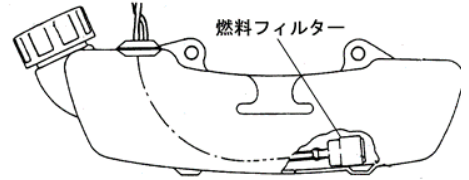
ガイド（凸部）と角穴を合わせ、エアークリーナーエレメント、エアークリーナーカバーを取り付け、ノブボルトを締め付けます。



## 8-3 燃料フィルターの清掃

燃料ホースの先端（タンク内）には、フェルトのフィルターが付いており、ゴミや、砂などの異物がキャブレター内へ行かないようにしています。フィルターに異物や水が付くと燃料を吸い上げることが出来なくなり、エンジンが不調となりますので時々洗浄が必要です。

1. **タンクキャップを外し、燃料を抜き、燃料タンクを空にします。**  
燃料タンク内に異物が残っていないかを確認し、残っている場合は、きれいに抜き取ってください。
2. **燃料フィルターを針金などを使って給油口から引き出します。**
3. **燃料フィルターを洗浄します。**  
燃料ホース先端から燃料フィルターを取り外し、燃料フィルターをきれいなガソリンで洗浄し、元通り取り付けます。
4. **燃料フィルターが詰まっていたり、いたんでいる場合は交換してください。**
5. **燃料フィルターを燃料タンク内に戻し、タンクキャップを確実に締めつけてください。**



## 8-4 スパークプラグの清掃と調整

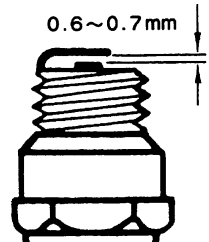
### ▲警告

- ◇ 刈払機の運転中は、点火プラグキャップ部や高圧線に触れてはいけません。感電事故の原因となります。
- ◇ スパークプラグの電極間隔の調節は、基本的に行ってはいけません。
- ◇ 電極間隔の調節に慣れていない人が調整をおこなうとあってエンジンが不調となることがあります。
- ◇ 電極間隔の調節に自信の無い方は、お買い求めになった販売店に依頼してください。



最良の運転状態ではスパークプラグの電極は茶褐色に乾燥しています。汚れていたら時々掃除します。

又、スパークプラグの電極間隔は0.6mm～0.7mmが標準です。電極間隔が広すぎたり狭すぎたりするとエンジンが正常に動かなくなりますので、不調の場合には点検、調整を行ないます。調整の際には販売店などに御依頼ください。

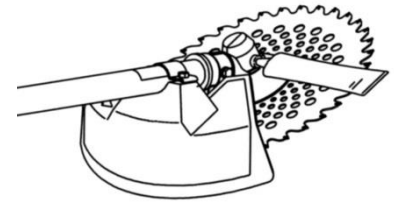


1. **スパークプラグを取り外します。**  
スパークプラグからプラグキャップを外して、プラグレンチでスパークプラグを取り外します。
2. **カーボンを掃除します。**  
先を細くした金物やワイヤーブラシなどで電極に付着したカーボンを掃除します。調子が悪い場合には、電極間の隙間を0.6mm～0.7mmに調節します。
3. **スパークプラグを再び取り付け、プラグキャップをはめます。**
4. **正常に働かない場合にはスパークプラグを交換します。**  
電極の掃除、間隔の調整を行なっても正常に働かない場合にはスパークプラグを交換します。交換する際には CHAMPION CJ6Y のプラグ、又は相当品を使用してください。

## 8-5 ギアケース

### 8-5-1 ギアケースへのグリス補給

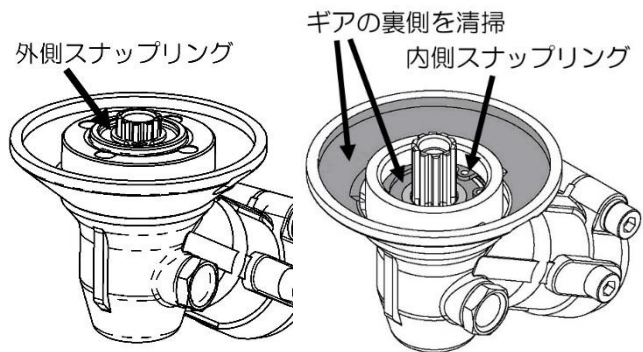
1. **グリスをギアケースに注入します。**  
ギアケースにはグリス注入口が付いています。グリスを補給する際には、グリス注入口のネジを外してグリスをギアケースに一杯に注入してください。
2. **新品は20時間でグリスを補給します。**  
新品の刈払機の場合には、20時間使用後にグリスを補給します。
3. **その後は50時間使用するごとにグリスを補給します。**



### 8-5-2 ギアケースの清掃と点検

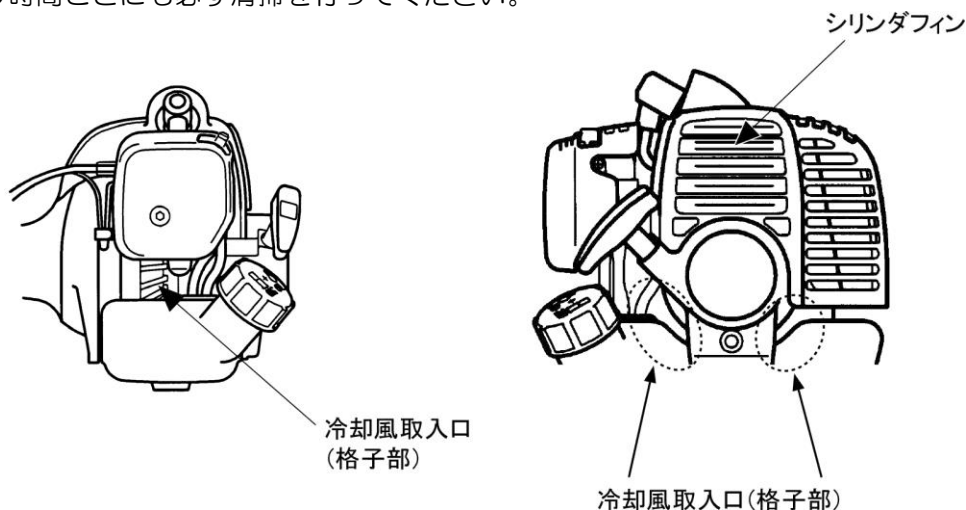
ギアケースの刃受け金具や巻付防止カバーの裏側には切った草やツタ、草の汁などが付着し溜まっています。これを放置すると、機械の不調や思わぬ飛散物の原因となりますので、使用後に清掃してください。

1. **刈刃を取り外します。**
2. **外側スナップリング、刃受け金具を取り外します。**  
市販のスナップリング外し工具（軸用）で、外側スナップリングを取り外し、刃受け金具も取り外します。
3. **ギアの裏側を掃除します。**  
ウェス（ボロ布）、木ヘラなどを使って綺麗に清掃します。
4. **20時間ごとに内側スナップリング部を確認してください。**  
内側スナップリングが抜けかけていたり、溝が磨耗していないか確認してください。異常があった場合はギアケースを交換してください。



## 8-6 シリンダー冷却フィン、冷却風取入口

ほこりの多い所での使用、雨上がりの翌日、つゆ時の使用では草、ほこりなどがシリンダー冷却フィンや、冷却風取入口（キャブレター下側、マフラー下側）に詰まり、冷却効果が無くなってエンジンが過熱することがありますので、使用後は必ず清掃を行ってください。  
又、使用20時間ごとに必ず清掃を行ってください。



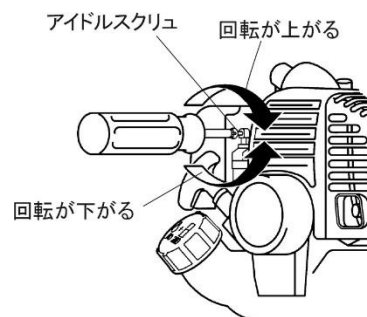
## 8-7 キャブレター

### △注意

- ◇ キャブレターはあらかじめ工場では調整して出荷していますので、通常は調整の必要はありません。
- ◇ キャブレターの扱いに慣れていない人は、キャブレターの調節を行なってはいけません。間違った調節をしますとキャブレターだけでなくエンジンも壊れてしまうことがあります。調整は販売店に依頼してください。
- ◇ たとえ、キャブレターの調節が適切でないように見えても、キャブレターが原因でない場合がありますので、調整は販売店に依頼してください。
- ◇ キャブレターの調節は必ず回転計を使用して正しい回転数に合わせて下さい。

アイドルリング回転時に刈刃が動くと危険です。アイドルリング回転時に刈刃が動くようであれば、アイドル調節スクリューでアイドルリング回転数を調節してください。

1. エンジンを始動させます。
2. コントロールレバーを中速にし、スロットルレバーを開閉して数回加減速を行います。
3. スロットルレバーを放します。
4. 回転数を合わせます。  
アイドルリング調節スクリューを左右に回して、回転数 2700～3200r.p.m の間で刈刃やチップソーが動き出さないところに合わせてください。

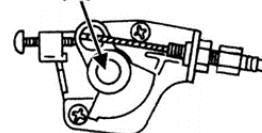


### <低速燃料調整>

全閉（右回し）より「1回転±1/4戻し」が基準です。  
基準開度から許容範囲内で左右に調整ネジを回して、最適な位置にセットしてください。

- 右回し → 燃料が薄くなり回転が上昇します。
- 左回し → 燃料が濃くなり回転が低下します。

低速燃料調節  
スクリュー



## 8-8 フレキシブルシャフト

### ▲警告

- ◇ フレキシブルシャフトは、使用方法を誤りますと寿命を早め、折損することがありますのでご注意ください。
- ◇ 使用時にフレキシブルシャフトの温度が異常に上がった場合は作業を中止し、フレキシブルシャフト、グリース量を調べてください。
- ◇ グリースがない場合フレキシブルシャフトが切れることがあります。

### 使用グリース

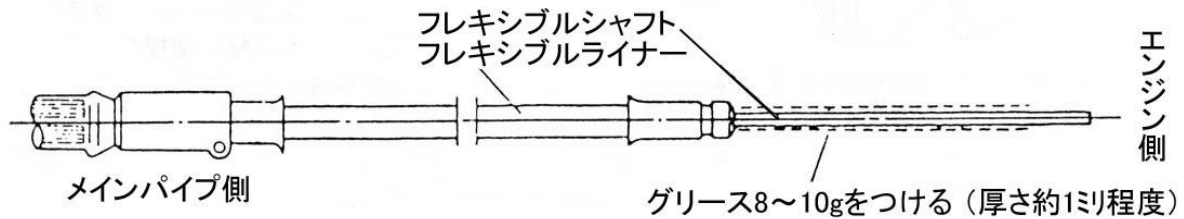
ベアレックス EP-2、又はシェルアルバニアNo.2

### グリースの補給

#### 1. 5～15 時間ごとに塗布

5～15 時間ごとにフレキシブルライナ（エンジン側）よりフレキシブルシャフトを抜き、グリースを 8～10 g 塗布してください。

2. フレキシブルシャフトとフレキシブルライナは時々組み付け方向を逆にすると長持ちします。



## 8-9 刈刃の目立て

### ▲警告

- ◇ 刈刃を扱う時には必ず保護手袋を着用すること。
- ◇ 保護手袋を着用せずに刈刃を扱うと、手や指にケガを負う原因となります。
- ◇ 刈刃は使用する前に、「割れ」や「欠け」「曲がり」「反り」「ひび割れ」が無い点検すること。
- ◇ 異常がある刈刃は廃棄すること。異常がある刈刃やチップソーを作業に使用すると、正規の性能が発揮できないだけでなく、深刻なけがや事故の原因となります。



### 付記

- ◇ 目立て直しなどの修正された刈刃やチップソーについては保証の対象外となります。

#### 8枚刃

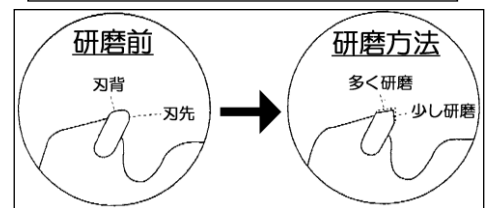
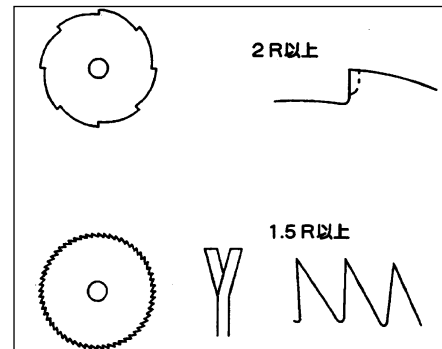
刃付けを根元まで行ってはいけません。必ず刃底には丸やすりで2R以上の丸みをつけてください。

#### 丸鋸刃

刃付けを根元まで行ってはいけません。必ず刃底には丸やすりで1.5R以上の丸みをつけてください。また、刃先には必ずアサリを均等につけてください。

#### チップソー

チップソーの目立て直しについては、刃先先端部のみをダイヤモンドラッパーで軽く、鋭利に修正研磨してください。





## 8-10 保管

長期間使用しない場合、正しく保管しなければ故障や、始動不良の原因となります。以下の手順で保管します。

### ▲警告

- ◇ 子供の手の届かないところに保管すること。
- ◇ 屋内の湿気やほこりの少ないところに保管すること。湿気は点火システムに有害です。
- ◇ 刈刃をつけたまま保管するときには、必ずノコバカバーを刈刃に取り付けること。
- ◇ 燃料タンクから燃料を完全に抜くこと。混合燃料を燃料タンクに入れたままにすると変質します。変質した燃料をエンジンに入れたままにしたり、使用してエンジンをかけたりするとエンジンに大変悪い影響を与えます。

1. **燃料タンクから燃料を完全に抜きます。**
2. **エンジンがガス欠で止まるまで回します。**  
キャブレターから燃料をなくすために、エンジンをかけ、スロットルレバーを放してアイドリングの状態のまま、ガス欠で止まるまでエンジンを回します。
3. **エンジンが冷えてから各部の点検、及び清掃をします。**
4. **シリンダー内に2サイクルオイルを垂らします。**  
スパークプラグを外し、シリンダーの内面やベアリングなどの錆止め、保護のために2サイクルオイルを1ccほど注入し、スターターをゆっくりと数回引いて、ピストンがもっとも上にきたところで止めてください。スパークプラグを元通り取り付けます。  
(スパークプラグキャップは接続しないでください。)
5. **ストップスイッチを「STOP」の位置にして、湿気や埃などの少ない屋内に保管します。**

## 9 故障かな?と思ったら

現象	推定原因	対策
エンジンが始動しない。 またはエンジンの始動が困難。	始動手順が間違っている。	取扱説明書の「始動手順」に従ってください。
	キャブレター調節が間違っている。	取扱説明書の「8-7 キャブレター」に従って、アイドル回転数の調整をしてください。
	スパークプラグの異常	スパークプラグを取り外し、清掃と電極間隙の調整を行ってください。 スパークプラグが濡れている場合はプラグをかわかしてから付け直し、エンジンが始動するまでスロットル全開で始動を行ってください。 スパークプラグが乾いている場合は、チョークを閉じて始動を行ってください。
	燃料フィルターが詰まっている。	燃料フィルターを清掃または交換してください。
エンジンは始動するが回転が上がらない。	チョークレバーが間違った位置にある。	チョークを「全開」にしてください。
	マフラーが汚れている。	マフラーを清掃してください。
	エアクリーナーが汚れている。	エアクリーナーを清掃または交換してください。
	キャブレター調節が間違っている。	販売店でキャブレターを調整または交換してもらってください。
エンジンの出力不足	キャブレター調節が間違っている。	販売店でキャブレターを調整または交換してもらってください。
エンジン回転が不規則	スパークプラグの電極間隔が間違っている。	スパークプラグを取り外し、清掃と電極間隙の調整を行ってください。
排気ガスが多い	キャブレター調節が間違っている。	販売店でキャブレターを調整または交換してもらってください。
	燃料が不適である。または燃料混合比が間違っている。	正しい混合燃料を入れてください。
刃の切れ味が悪い	刈刃やチップソーの目立てが間違っている。	正しい目立てを行ってください。

- 上の表以外の症状又は推定原因による故障については販売店にご用命ください。

# 10 定期整備表

		使用後	10 時間後	20 時間後	50 時間後	必要に 応じて
ボルト、ナット類	点検と締付	○				
エアクリーナー	清掃または交換		○			
燃料フィルター	清掃または交換			○		
スパークプラグ	点検	○				
	*調整, 交換					○
マフラー内部	*清掃				○	
エアギャップ間隔	*清掃, 調整			○		
シリンダーフィン	清掃	○		○		
冷却風取り入れ口	清掃	○		○		
スターターロープ	点検または交換	○				
燃料ホース	点検または交換	○				
ギアケース	給脂(初回)			○		
	給脂(二回目以降)				○	
	点検と清掃			○		
刈刃、ナイロンカッターの磨 耗、損傷	点検または交換	○				
フレキシブルシャフト	点検、給脂		○			

\*印の整備については販売店などにご用命ください。

# 11 主要諸元

型式	RX-2700KB
重量	7.2kg
燃料タンク容量	1,000cc
標準付属刈刃	チップソー（外径255mm、歯数40）
刈刃回転方向	反時計回り（作業者から見て）
エンジン型式	単気筒空冷2サイクルピストンバルブ式ガソリンエンジン
総排気量	26.0cc
アイドル回転数	2700~3200rpm
始動方式	リコイルスターター方式
始動時燃料供給方法	プライミング方式
潤滑方式	燃料混合潤滑式
気化器	ダイヤフラム式
点火プラグ	CHAMPION CJ6Y
使用燃料	潤滑油混合ガソリン
混合比	50:1 [SS-50] エンジンオイル
周波数補正振動加速度実効値 ISO 22867 (3軸合成値)	4.6m/s <sup>2</sup>
振動測定者	株式会社新宮商行

改良などにより商品の細部仕様が本書記載内容と異なることがあります。ご了承ください。



関東支社 (機械本部)	〒270-2231	千葉県松戸市稔台 6-7-5	TEL 047(361)4701(代)
北海道営業所	〒047-0032	北海道小樽市稲穂 2-1-1	TEL 0134(24)1313(代)
東北営業所	〒963-0547	福島県郡山市喜久田町卸 1-37-1	TEL 024(959)6212(代)
東京営業所	〒270-2231	千葉県松戸市稔台 6-7-5	TEL 047(361)6831(代)
名古屋営業所	〒463-0022	名古屋市守山区八剣 1-303	TEL 052(768)1303(代)
西日本支店	〒520-2134	滋賀県大津市瀬田 5-22-26	TEL 077(500)3380(代)
福岡営業所	〒813-0062	福岡市東区松島 6-4-17	TEL 092(611)1988(代)